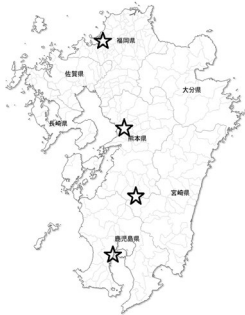


九州正教会だより

第38号



(人吉・鹿児島・熊本・福岡)

2022年11月1日発行

発行人：司祭グリゴリイ水野 宏

〒868-0081 熊本県人吉市上林町979-5 人吉司祭館

TEL / FAX 0966-24-7861

mail ocj.kyushu@gmail.com

ホームページ <https://www.ocj-kyushu.com/>



天国に行くには

司祭グリゴリイ 水野 宏

ルカによる福音書の 10 章と 18 章には、イエスが「何をすれば永遠のいのちを受け継ぐことができるか」という、全く同じ質問を受けたことが記されています。これは言い換えれば、天国に行くにはどうしたら良いかという問いなのですが、イエスは律法、つまり神が与えた誡めに従えと答えています。しかし、質問者は回答があまりにも当たり前すぎて納得しませんでした。そこでイエスはさらに言葉を付け加えました。

10 章で述べたのは「善きサマリヤ人のたとえ」(ルカ 10:30-36) です。

追いはぎに襲われて倒れていた旅人を、社会で尊敬されていた祭司とレビ人は無視して通り過ぎてしまったのに、被差別人種のサマリヤ人が、何の義理もないのに至れり尽くせりの介抱をしてくれた。隣人と呼べるのは三人のうち誰か、というたとえ話です。

18 章では、律法など子どもの頃から守っているという大金持ちの質問者に「欠けているものがまだ一つある。持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい」(ルカ 18:22) と言いました。質問者は悲しそうな顔をして去ってしまいました。

この二つの事例から、イエスが「天国に行くために必要なこと」として示したのはただ一つ、無償の「隣人愛」だと言えます。つまりイエスが言わんとしているのは、律法を守るとは規則を字面通りに守るという意味ではなく、そこにある神の真意を理解して実践するということであり、その真意とは神が全ての人間を愛しているのだから、人間も利害に関係なく互いに愛し合うべき、つまり「隣人愛」に集約されるということなのです。

世界では今も戦争が行われ、さらにはその戦争が神の御旨であるがごとき主張をする人もいます。しかし神の真意が隣人愛にあるならば、戦争はどんなに正当化しようとも、神に背く大罪であることは明らかです。私たちはその戦争で苦しむ人々の隣人として、一人ひとりが祈りと善意に基づく支援の気持ちを忘れないようにしましょう。